

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	人間の尊厳と自立		担当教員  (実務経験)	杉浦 理恵  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として児童福祉施設に勤務	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	「人間」の理解を基礎として、尊厳の保持と人権尊重や自立の考え方について理解し、倫理的課題に対応するための介護福祉専門職としての倫理観や視点の基礎を養うことを目的とする。				
到達目標	「人間の尊厳と自立」・「介護における尊厳の保持・自立支援」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことが出来る。尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。				
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40%	試験、レポート、リアクションペーパーの内容および提出状況や、他者との対話、交流、ディスカッションに組み込む姿勢(主体的参加、共感的理解、無条件の肯定的関心、能動的・積極的姿勢など)、教員の問いかけに対する応答等授業への参加態度を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	20%			
その他	20%				
履修上の 留意事項	本科目は、社会福祉専門職(介護福祉士)の基盤であり、支援者としてのアイデンティティ形成に大きく影響する科目です。ただ受講するだけではなく、その意味を考えて必要と思うところは指示されなくてもメモをとり、あらためて自分がどのように受け止めたか考えてみる姿勢で授業にのぞんでください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	本科目を学ぶにあたって、オリエンテーション(杉浦・吉岡)	介護福祉専門職養成における本科目の位置づけと目的 本科目の展開、評価、約束事		
	2	福祉の理念(杉浦・吉岡)	認知症サポーターを通じて「福祉の理念」を学ぶ		
	3	人間の尊厳と利用者主体①(杉浦・吉岡)	人間の理解、人間の尊厳という理念		
	4	人間の尊厳と利用者主体②(杉浦・吉岡)	利用者主体の考え方とその実現		
	5	人権思想の潮流とその具体化(杉浦・吉岡)	人権思想の歴史展開と人権と具体化		
	6	人権や尊厳に関する日本の諸規定(杉浦・吉岡)	現代における人権保障と人権侵害 日本国憲法と社会福祉		
	7	社会福祉領域の人権・理念—戦前の変遷—(杉浦・吉岡)	エリザベス救貧法、人口論、社会ダーウィニズム、COS、セツルメント運動、パーソナリティの強化、優勢思想の政策		
	8	社会福祉領域の人権・理念—戦後の変遷—(杉浦・吉岡)	子供、女性、LGBT、貧困問題・人権問題、公民権運動、バイステックの7原則、エンパワメント、ノーマライゼーション、QOL、生命倫理と福祉労働		
	9	人権尊重と権利擁護(杉浦・吉岡)	権利侵害とその背景、権利擁護の視点、アドボカシー エンパワメント		
	10	先の出来事から教えられること(杉浦・吉岡)	ハンセン病にかかる歴史から学ぶ		
	11	自立概念の理解(杉浦・吉岡)	自立の捉え方		
	12	自立と自立支援について考える①(杉浦・吉岡)	自立支援に必要な視点と考え方		
	13	自立と自立支援について考える②(杉浦・吉岡)	ICFの考え方		
	14	人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性(杉浦・吉岡)	尊厳を損なう介護、尊厳を守るための介護、尊厳を守る自立支援		
15	全体のまとめ(杉浦・吉岡)	各回の振り返り、改めて人間の尊厳と自立とは			



授業科目 (科目ID)	人間関係とコミュニケーション		担当教員  (実務経験)	渡辺 舞  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	心理学的な側面からの対人理解と援助技法を学び、介護現場で実践できる力を身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分と他者を理解し表現することができる。</li> <li>集団の中でのコミュニケーション技法を学び、活用することができる。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座1人間の理解 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	試験及び授業内で実施する演習の参加度、出席課題、授業で使用するプリント提出等の総合評価とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
	その他	10%			
履修上の留意事項	配布プリントはノート代わりの書き込み方式です。最終授業の時に提出してもらい、評価の対象としますので、なくさないように各自ファイル等を準備してください。座学中心の授業ですが、演習やグループワークで理解を深めていきますので、積極的な授業態度を期待しています。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	履修内容・評価について/自分と相手を理解する		
	2	人間と人間関係(1)	自分と他者の理解;私是谁?・相手を知る		
	3	人間と人間関係(2)	発達心理学からみた人間関係;発達段階説と社会性の発達		
	4	人間と人間関係(3)	社会心理学からみた人間関係;対人認知とグループ・ダイナミクス		
	5	人間と人間関係(4)	人間関係とストレス;ストレス理論とソーシャルサポート		
	6	対人関係におけるコミュニケーション(1)	コミュニケーションの基本構造;送り手と受け手のしくみ		
	7	対人関係におけるコミュニケーション(2)	コミュニケーションの手段①;言語的コミュニケーション		
	8	対人関係におけるコミュニケーション(3)	コミュニケーションの手段②;非言語的コミュニケーション		
	9	対人援助関係とコミュニケーション(1)	人間関係の発展とコミュニケーション;親密な関係の発達と崩壊		
	10	対人援助関係とコミュニケーション(2)	対人援助における基本的態度;受容・共感・傾聴		
	11	対人援助関係とコミュニケーション(3)	援助的人間関係の形成;パステックの7つの原則		
	12	組織におけるコミュニケーション(1)	組織における情報の流れ;コミュニケーションの構造		
	13	組織におけるコミュニケーション(2)	組織における対立と協力;社会的ジレンマ		
	14	組織におけるコミュニケーション(3)	組織におけるコミュニケーション;集団討議とリーダーシップ		
15	まとめ	15回のまとめとふりかえり			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	地域共生論	担当教員  (実務経験)	高田 友子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として社会福祉協議会に勤務		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	地域における生活と支援の基礎的な知識(地域共生社会の制度・施策、介護保険関連の諸制度)を学びます。				
到達目標	介護福祉士として重要な視点・知識を学び、様々な諸制度、施策を比較し、区別して習得することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	定期試験、グループディスカッションの積極的な姿勢(発言、相手の意見への理解)を総合的に判断して評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	講義は、教科書を中心としながら、必要に応じて重要な内容はプリントや資料の配布を行いながら進めていきます。適宜、演習、グループ活動も交えるので、学生の皆さんには積極的な参加、お互いの協力ができるように期待します。講義の内容で制度や施策等、難しく覚えにくいですが、日常生活でも知っている役に立つため、どの場面でどのような制度や施策が利用できるか、結びつけると覚えやすいと思います。講義内容でわからない部分があれば、講義後にも、いつでも質問してください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	生活を幅広くとらえる	・複合的視点と代表的な学説 ・人間の尊厳、ソーシャルワーク視点 ・社会生活のメカニズム		
	2	生活基本機能	・家族機能の変化 ・「家族」と「家庭」の違い ・厚生労働白書、国民生活白書にみる家族機能		
	3	ライフスタイルの変化	・生活と働き方の変化、ワーク・ライフ・バランス ・生涯学習 ・少子高齢化社会の課題		
	4	家族の機能と役割	・家族の定義、世帯の変容、多様な機能 ・核家族、複婚家族、拡張家族、定位家族、生殖家族		
	5	社会・組織の機能と役割	・社会・組織の概念、機能と役割 ・グループ支援、組織化、エンパワメント		
	6	地域・地域社会	・地域、コミュニティ、集団と組織 ・自助、互助、共助、公助		
	7	地域社会における生活支援	・産業化、都市化、過疎化 ・ソーシャル・サポートネットワーク		
	8	地域社会の発展	・地域福祉の歴史、構成要素 ・災害とボランティア		
	9	地域共生社会	・地域共生社会がめざす社会像 ・地域共生社会の考え方の背景		
	10	地域包括ケア	・地域包括ケアの考え方と背景 ・地域包括ケアの介護のあり方		
	11	個人の権利を守る制度・施策	・4つの虐待防止法の比較と施行までの背景 ・成年後見制度、日常生活自立支援事業の比較 ・個人情報保護、第三者評価、苦情解決・不服申し立て		
	12	保健医療に関する制度・施策	・保健医療の制度、施策 ・生活習慣病、感染症の予防と対策		
	13	貧困対策、生活困窮者に関する制度・施策	・生活保護法、生活困窮者自立支援法の概要 ・貧困対策		
	14	地域生活を支援する制度・施策	・就労支援、雇用促進に関する制度、施策 ・自殺予防に関する制度、施策		
15	総まとめ、復習	・全体のまとめ、要点の整理			

授業科目 (科目ID)	介護の基本 I		担当教員  (実務経験)	木村 聖美  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として訪問介護事業所に勤務	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
到達目標	「その人らしい生活を支援する専門職」として基本となる考え方や姿勢を学び、「自立に向けた介護とは何か」を理解し、生活支援としての介護の役割や専門的能力を身に付ける。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本 I 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本 II 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『福祉小六法2023』 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60%	定期試験、小テスト、提出物、グループディスカッションの積極的な姿勢(発言、相手の意見への理解)を総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	10%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	テキストを中心に板書・プリント・視聴覚機器などによる学習を行い、演習、事例検討、施設見学等も取り入れます。「介護の専門職」として、基本となる知識、技術、姿勢、思考の基本となることを学ぶ科目です。介護福祉に携わる者としての人格形成をなす中核的科目であることを十分理解して学びを深めてください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション(木村)	授業の概要説明		
	2	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解①	生活とは何か		
	3	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解②	生活にとって大切な要素、生活の特性		
	4	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解③	介護福祉を必要とする人の暮らしを理解すること 介護福祉を必要とする高齢者の暮らし		
	5	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解④	介護福祉を必要とする障害者の暮らし		
	6	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解⑤	個人の暮らしや歴史を聴く場合の注意点		
	7	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解⑥	その人らしさとは何か、その人らしさの背景、その人らしさの介護福祉における活用、生活ニーズの理解、個々の生活ニーズにどこまでこたえるか		
	8	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解⑦	生活のしづらさについて考える、日常生活から考える「生活のしづらさ」		
	9	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解⑧	「生活のしづらさ」に対する支援、家族介護者への支援		
	10	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ①	施設見学		
	11	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ②	施設見学		
	12	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ③	高齢者のためのフォーマルサービスの概要		
	13	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ④	障害者のためのフォーマルサービスの概要		
	14	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑤	費用負担の区分、フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係、インフォーマルサービスの種類・提供者 介護福祉士に求められる支援の視点		
15	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑥	地域連携の意義と目的			

16	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑦	地域連携に関わる機関の理解
17	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑧	利用者を取り巻く地域連携の実際
18	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方①	自立支援とは
19	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方②	自立支援とエンパワメントの考え方
20	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方③	自立支援とICF(国際生活機能分類)の考え方
21	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方④	介護におけるICFのとらえ方
22	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑤	介護予防の概要
23	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑥	介護予防の種類と特徴
24	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑦	高齢者の身体特性と介護予防
25	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑧	介護予防の実際
26	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑨	自立支援と介護予防
27	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑩	介護予防における介護福祉士の役割
28	高齢者と薬①	薬の知識
29	高齢者と薬②	薬の使用方法和留意点
30	まとめ	今までの振り返り

授業科目 (科目ID)	介護の基本Ⅱ		担当教員  (実務経験)	立成 みゆき  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士としてディサービスに勤務	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
到達目標	「その人らしい生活を支援する専門職」として基本となる考え方や姿勢を学び、「自立に向けた介護とは何か」を理解し、生活支援としての介護の役割や専門的能力を身に付ける。				
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『福祉小六法2023』 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	定期試験、小テスト、提出物、総合的にグループディスカッション時の積極的な発言や相手の意見を聞く姿勢などを総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	10%			
その他	10%				
履修上の留意事項	テキストを中心に板書・プリント・視聴覚機器などによる学習を行い、演習、事例検討、施設見学等も取り入れます。「介護の専門職」として、基本となる知識、技術、姿勢、思考の基本となることを学ぶ科目です。介護福祉に携わる者としての人格形成をなす中核的科目であることを十分理解して学びを深めてください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは①	身近になった介護サービス		
	2	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは②	介護の意味、見方、考え方の変化		
	3	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは③	介護問題への対応、歴史的変遷①		
	4	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは④	介護問題への対応、歴史的変遷②		
	5	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑤	介護サービスの歴史的変遷、時代背景①		
	6	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑥	介護サービスの歴史的変遷、時代背景②		
	7	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑦	介護サービスの歴史的変遷、時代背景③		
	8	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑧	介護と医行為、医療的ケアについて		
	9	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑨	介護理念について		
	10	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑩	基本的人権の主体		
	11	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑪	利用者主体の生活支援		
	12	教科書Ⅰ第1章 介護福祉とは⑫	利用者の権利に基づくサービス指針		
	13	教科書Ⅱ第3章 感染対策の基礎	感染対策、手洗い演習、前期まとめ		
	14	教科書Ⅰ第2章 介護福祉士の機能と役割①	地域包括ケアシステムの背景		
15	教科書Ⅰ第2章 介護福祉士の機能と役割②	介護問題の背景			

16	教科書 I 第2章 介護福祉士の機能と役割③	介護予防の視点
17	教科書 I 第2章 介護福祉士の機能と役割④	災害時支援と災害派遣福祉チーム
18	教科書 I 第2章 介護福祉士の機能と役割⑤	社会福祉士及び介護福祉士法
19	教科書 I 第2章 介護福祉士の機能と役割⑥	求められる介護福祉士像
20	教科書 I 第2章 介護福祉士の機能と役割⑦	介護福祉士を支える団体
21	教科書 I 第3章 介護福祉士の倫理①	介護実践における倫理
22	教科書 I 第3章 介護福祉士の倫理②	「介護の倫理」と「尊厳ある介護実践」①
23	教科書 I 第3章 介護福祉士の倫理③	「介護の倫理」と「尊厳ある介護実践」②
24	教科書 I 第3章 介護福祉士の倫理④	日本介護福祉士会倫理綱領①
25	教科書 I 第3章 介護福祉士の倫理⑤	日本介護福祉士会倫理綱領②
26	教科書 I 第3章 介護福祉士の倫理⑥	倫理について考える演習
27	まとめ	国家試験に挑戦、授業のまとめ
28	教科書 I 第4章第3節介護とリハビリテーション①	リハビリテーションの考え方
29	教科書 I 第4章第3節介護とリハビリテーション②	理学療法の理解
30	教科書 I 第4章第3節介護とリハビリテーション③	作業療法の理解

授業科目 (科目ID)	コミュニケーション技術	担当教員  (実務経験)	山根 英香  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として社会福祉事務所に勤務		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	①介護福祉士としてのコミュニケーションスキルを理解し演習する。②介護現場におけるコミュニケーションスキルを理解し演習する。				
到達目標	介護場面において意図的なコミュニケーションをとることができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	小テスト、講義への出席、演習への参加態度を総合的に評価します。		
	レポート	25%			
	小テスト	50%			
	提出物	%			
	その他	25%			
履修上の 留意事項	演習は学生の皆さんの参加で成立します。積極的に受講されることを期待します。配布したプリントやノートは小テストの際にみることができます。講義ごとに整理しておくことをお勧めします。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・利用者、家族への信頼関係をつくるコミュニケーション①	講義の進行の説明、受容と共感		
	2	利用者、家族への信頼関係をつくるコミュニケーション②	非言語的コミュニケーション		
	3	利用者、家族への信頼関係をつくるコミュニケーション③	面接の実践		
	4	他職種との信頼関係をつくるコミュニケーション①	会議やミーティングでのコミュニケーション		
	5	他職種との信頼関係をつくるコミュニケーション②	自己開示		
	6	他職種との信頼関係をつくるコミュニケーション③	サービス担当者会議での演習		
	7	障がいを持つ方とのコミュニケーション	コミュニケーション視点でみる障がいへの対応		
	8	利用者のニーズを引き出すコミュニケーション①	沈黙時のコミュニケーション		
	9	利用者のニーズを引き出すコミュニケーション②	ソリューションフォーカスアプローチ		
	10	わかりやすい説明と同意の引き出し	苦情・クレーム時のコミュニケーション		
	11	主体者を支援するコミュニケーション①	コーチング		
	12	主体者を支援するコミュニケーション②	ストレングス・エンパワメントアプローチ		
	13	コミュニケーション力を高めよう①	アサーション		
	14	コミュニケーション力を高めよう②	ディベート王選手権		
15	総括	全講義内容の振り返りと演習			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	生活支援技術Ⅲ		担当教員	山谷 博美	
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 3単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	45回	時間数 90時間
授業目的	本人主体の生活が継続できるよう、介護を必要とする対象や様々な場面における根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。				
到達目標	その人の状況や場面に合わせて、『障害などがあってもこれまでの生活が継続されるように現在の状態を把握し、潜在能力を引き出す』『自立を目指してできる能力を伸ばしていく』といった個別性を重視した介護を展開できるようになる。				
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	その他については、実技達成状況の評価とする。		
	レポート	5%			
	小テスト	10%			
	提出物	5%			
	その他	20%			
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書に基づき講義・演習するが、必要に応じて参考資料配布・DVD・AR等を活用する。</li> <li>介護実習室にて演習を行う場合「介護技術学内実習の受け方」に従う。</li> <li>介護技術の基本をマスターできるように、繰り返しの練習とその根拠を知った上で行うことが重要となる。各自の積極性が求められ、授業時間以外においても復習が必要となり常に何ができて何が不十分であるかを確認しながら行ってほしい。</li> </ul>				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	基本となる介護技術とは何か(山谷)	生活支援技術を学ぶにあたって		
	2	生活者体験(山谷)	高齢者・片麻痺体験《実技》		
	3	自立に向けた移動の介護①(工藤)	移動の基礎知識、ボディメカニクスの理解		
	4	自立に向けた移動の介護②(工藤)	体位変換～上方移動・水平移動～《実技》		
	5	自立に向けた移動の介護③(工藤)	体位変換～背面法・対面法～《実技》		
	6	自立に向けた移動の介護④(工藤)	体位変換～仰臥位→端座位→立位～①《実技》		
	7	自立に向けた移動の介護⑤(工藤)	体位変換～仰臥位→端座位→立位～②《実技》		
	8	自立に向けた移動の介護⑥(工藤)	体位変換の復習《実技》		
	9	自立に向けた移動の介護⑦(工藤)	体位変換【実技チェックノ振り返りシート作成】《実技》		
	10	自立に向けた移動の介護⑧(橋本)	褥瘡の予防、安楽な体位の保持、車いすの基礎知識《実技》		
	11	自立に向けた移動の介護⑨(橋本)	ベッド⇄車いすの移乗①《実技》		
	12	自立に向けた移動の介護⑩(橋本)	ベッド⇄車いすの移乗②《実技》		
	13	自立に向けた移動の介護⑪(橋本)	ベッド⇄車いすの移乗③《実技》		
	14	自立に向けた移動の介護⑫(橋本)	移乗【実技チェックノ振り返りシート作成】《実技》		
15	自立に向けた移動の介護⑬(橋本)	屋内の車いす移動①《実技》			

履修主題・履修内容	16	自立に向けた移動の介護⑭(橋本)	屋内の車いす移動②《実技》
	17	自立に向けた移動の介護⑮(山谷)	屋外の車いす移動①《実技》
	18	自立に向けた移動の介護⑯(山谷)	屋外の車いす移動②《実技》
	19	自立に向けた食事の介護①(山谷)	食事の基礎知識、具体的支援内容
	20	自立に向けた食事の介護②・STとの連携(山谷)	嚥下のメカニズムと嚥下の観察や食事時のポジショニング、トロミについて、嚥下体操
	21	自立に向けた食事の介護③(山谷)	食事介助の体験①《実技》
	22	自立に向けた排泄の介護①(山谷)	排泄の基礎知識～リハビリパンツ体験～
	23	自立に向けた排泄の介護②(山谷)	トイレでの排泄介助(リハビリパンツ、尿とりパッド)《実技》
	24	自立に向けた排泄の介護③(山谷)	尿器、便器、ポータブルトイレ、パウチ《実技》
	25	自立に向けた排泄の介護④(山谷)	紙おむつ①《実技》
	26	自立に向けた排泄の介護⑤(山谷)	紙おむつ②《実技》
	27	自立に向けた排泄の介護⑥(山谷)	排泄【実技チェック／振り返りシート作成】《実技》
	28	自立に向けた排泄の介護⑦(山谷)	立位での紙おむつ、布おむつ《実技》
	29	介護実技試験対策①(山谷)	介護実技試験対策①《実技》
	30	介護実技試験対策②(山谷)	介護実技試験対策②《実技》
	31	介護実技試験対策③(山谷)	介護実技試験対策③《実技》
	32	介護実習の振り返り①(山谷)	介護実習の振り返り①《実技》
	33	介護実習の振り返り②(山谷)	介護実習の振り返り②《実技》
	34	自立に向けた移動の介護⑰(山谷)	杖歩行《実技》
	35	自立に向けた移動の介護⑱(山谷)	様々な移乗方法《実技》
	36	自立に向けた移動の介護⑲(山谷)	福祉用具を用いた介助《実技》
	37	自立に向けた移動の介護⑳(山谷)	日常生活用具を用いた介助《実技》
	38	居住環境の整備①(山谷)	住まいの役割と機能
	39	居住環境の整備②(山谷)	生活空間
	40	居住環境の整備③(山谷)	快適な室内環境
	41	居住環境の整備④(山谷)	安全に暮らすための生活環境
	42	居住環境の整備⑤(山谷)	居住環境の整備における多職種との連携
	43	居住環境の整備⑥(山谷)	居住環境のまとめ
	44	介護福祉士国家試験対策(山谷)	介護福祉士国家試験に向けた模擬問題
	45	まとめ(山谷)	生活支援技術のまとめ



2023度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	生活支援技術Ⅳ		担当教員  (実務経験)	織田 なおみ  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として障害者支援施設に勤務	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	この科目で学ぶ介護技術は、単に介助の方法を学ぶだけでなく、その人がこれまでの生活習慣で獲得してきた様式や個性に着目して支援することの大切さを学びます。また、「老い」や「障害」等の見える部分のみを捉えて支援するのではなく、その人を取り巻く環境(人・物)や周囲との関係(相互作用)性等を多角的に捉え、根拠に基づく介護実践(知識と技術の習得)を目指します。				
到達目標	①様々な日常生活行為における意義と目的を説明することができる。②様々な日常生活行為におけるアセスメントの視点を養い、それらを述べるることができる。③なぜそのように支援するのか、支援の根拠を理解し述べるることができる。④介助におけるポイントや留意点を踏まえ、安全で正確な介助を実施することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	定期試験：生活行為の意義・目的、また、支援の根拠等の理解度を評価する。 レポート：課題把握、構成や体裁、考察状況等をルーブリック評価にて評価する。 その他：実技達成状況(30%)、授業姿勢(10%)とする。		
	レポート	10%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	①教科書に基づいて講義・演習を展開しますが、必要に応じて参考資料配布・視聴覚教材・ARを使用します。②歯科衛生学科教員より口腔ケア講習を受講します。③介護実習室にて演習を行う場合「介護技術学内実習の受け方」に従ってください。④介護技術の習得には、根拠を正しく理解した上で繰り返し取り組む姿勢が重要です。関連科目の横断学習と、授業中ではもとより授業時間外でも積極的な練習姿勢を求めます。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	基本となる介護技術とは何か、ベッドメイキング①	生活支援技術を学ぶにあたって、ベッドメイキングの基礎知識		
	2	ベッドメイキング②	シーツの畳み方、敷き方(三角コーナー・四角コーナー)①《実技》		
	3	ベッドメイキング③	敷き方(三角コーナー・四角コーナー)②《実技》		
	4	ベッドメイキング④	敷き方(三角コーナー・四角コーナー)③《実技》		
	5	ベッドメイキング⑤	敷き方(三角コーナー・四角コーナー)④《実技》		
	6	ベッドメイキング⑥	ベッドメイキング一式、臥床したままのシーツ交換《実技》		
	7	ベッドメイキング⑦	ベッドメイキング【実技チェック】《実技》		
	8	自立に向けた身じたくの介護①	着脱の基礎知識		
	9	自立に向けた身じたくの介護②	前開きの衣類の着脱(座位)《実技》		
	10	自立に向けた身じたくの介護③	丸首衣類の着脱(座位・臥位)《実技》		
	11	自立に向けた身じたくの介護④	前開きの衣類の着脱(臥位)《実技》①		
	12	自立に向けた身じたくの介護⑤	前開きの衣類の着脱(臥位)《実技》②		
	13	自立に向けた身じたくの介護⑥	日常着の着脱、浴衣の着脱《実技》		
	14	自立に向けた身じたくの介護⑦	着脱【実技チェック】振り返しシート作成《実技》		
15	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①	入浴に関する基礎知識			

履修主題・履修内容	16	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②	全身清拭《実技》
	17	自立に向けた入浴・清潔保持の介護③	入浴介助《実技》
	18	自立に向けた入浴・清潔保持の介護④	手浴・足浴の介護
	19	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑤	ハンドマッサージ①《実技》
	20	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑥	ハンドマッサージ②《実技》
	21	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑦	ハンドマッサージ③《実技》
	22	自立に向けた身じたくの介護⑧	整容(爪・ひげ剃り)の介助《実技》
	23	自立に向けた身じたくの介護⑨	口腔ケア① 《実技》
	24	自立に向けた身じたくの介護⑩	口腔ケア② 《実技》
	25	休息と睡眠環境を整える	休息と睡眠の基礎知識、睡眠の介護と多職種連携
	26	介護技術の振り返り①	介護技術の振り返り《実技》
	27	介護技術の振り返り②	介護技術の振り返り《実技》
	28	介護技術の振り返り③	介護技術の振り返り《実技》【実技チェック／振り返りシートの作成】
	29	介護福祉士国家試験対策①	介護福祉士国家試験対策①
	30	介護福祉士国家試験対策②	介護福祉士国家試験対策②

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	レクリエーション支援 I	担当教員  (実務経験)	長江 孝  レクリエーションインストラクターとして こども共有サポートセンターに勤務		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	世界的な健康増進の動向の中で、「心を元気にする」ためのレクリエーション支援に注目が集められています。本演習では、レクリエーション支援の基礎を学びます。				
到達目標	レクリエーション支援者として、良好なコミュニケーションづくりの理論に裏付けられた信頼関係を気づく方法(ホスピタリティ)や動機づけの理論に裏付けられた「自主的、主体的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開方法」(アイスブレイキング)を実施できるようになる。				
テキスト・ 参考図書等	『レクリエーションガイドブック40 基本のアイス・ブレイキング・ゲーム』公益財団法人日本レクリエーション協会 『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～』公益財団法人日本レクリエーション協会				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	小テスト・提出物・演習時の実技・授業への積極的な参加姿勢(発言や意見交換)を総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	30%			
	提出物	30%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	テキスト・プリントを元に授業を展開します。体を動かすレクリエーション活動を中心に行いますので、動きやすい服装で参加してください。楽しく積極的な参加を期待します。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション レクリエーション概論	授業の内容と評価について レクリエーションとは？		
	2	楽しさと心の元気づくりの理論	対象者の心の元気と課題		
	3	レクリエーション支援の理論	信頼関係づくりの理論		
	4	レクリエーション支援の理論	良好な集団作りの理論		
	5	レクリエーション支援の理論	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論		
	6	レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ		
	7	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法アイスブレイキングモデル		
	8	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法アイスブレイキングモデル		
	9	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法		
	10	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法		
	11	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法		
	12	レクリエーション支援実習	プログラムの立案		
	13	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施		
	14	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施		
15	レクリエーション支援実習	まとめ			

